

樹 姉 ば よ り

No.167
2018.09



真夏の大洗海岸

慈 悲 喜 捨

現在の日本は、世界でも有数の長寿社会となっています。西暦二〇五〇年頃には全国で百歳を迎える人が約七〇万人、人口比率では一四〇人に一人が一〇〇歳以上に達するということが予測されます。

今月の祝日である「敬老の日」には、次のような経緯があります。一九五一年に「としよりの日」として制定され、老人福祉法の制定によって「老人の日」と改称されました。そして、一九六六年から、九月十五日が「敬老の日」として国民の祝日となりました。その後、二〇〇三年からは、九月の第三月曜日が「敬老の日」となり、九月十五日は「老人の日」、九月十五日と二十一日は「老人週間」になりました。

「敬老の日」は、「長年にわたって社会につくされた老人を敬愛し、長寿を祝う日」とされています。また、「老人の日」「老人週間」は、「国民の間に広く老人の福祉について関心と理解を深め、老人に対して自らの生活の向上に努める意欲を促すために設ける」と記されています。つまり、敬老の日は「お祝いの日」、老人の日は、高齢者への理解やこれまでの様々な取り組み

などを知る「啓発の日」ということになりました。

さて、老人と呼ばれる年齢は何歳からでしょうか。老人福祉法では、「六十五歳以上」と定められ、国連の世界保健機関(WHO)は、六十五歳以上の人を「高齢者」としています。そのため、一般的に「六十五歳以上」の人が該当するようになります。しかし、年齢の線引きは、人それぞれの価値観や気持ちによるところが大きく、さらに老人と言われることに抵抗を感じる人もいます。

なお、海外には「祖父母の日」という祝日があり、自分の祖父母に対してお祝いをする日になっています。食事会や贈り物をしたり、家事を手伝う、住環境をバリアフリーにするなど、様々な方法で祖父母に対して感謝といたわりの気持ちを表します。これは、日本でも同様でしょうが、更に見習っていく必要があるように思います。

敬老の日を通じて、高齢者の生活や社会問題などを考えたり、海外の人に倣って感謝といたわりの気持ちをもっと具体的に現すなど、皆でよりよい環境を心掛けていきたいと思います。

教頭 金安伸一

空白は希望で埋める

明照学園理事長
野口 秀樹



第二学期が始まりました。必ず充実した二学期にしてまいりましょう。

中高中生に読ませたい本を沢山書いている作家、喜多川泰氏の講演CDを、無料で下さると書かれたチラシを見たので、応募しました。後日、島根県の雲南市から、CDが入った封書が届きました。

そのチラシは、兵庫県養父市の方から、私が復刻版の書籍を注文したときに送られてきたものです。そして、その復刻版の書籍の記事は、神奈川県足柄上郡の方が中心になって作られている「やまびこペンクラブ」の冊子に書かれています。

その冊子を送ってくれたのは、高崎市の知り合いであります。

この話の中には四人の関係者がおりますが、会ったことのある方は、この高崎の方だけ。でも、次から次と、私が望むものが私の手元に届くのです。

そればかりか葉書を出すと、思いがけない縁へと展開していく。この現象には驚いているのです。もしかすると、動き出すと引き寄せる縁が待ち構えている、ということなのかも知れません。話を元に戻します。

無料のCDを送ってくれたのは、私と同じ昭和二十八年生まれの男性でした。建材店を営んでいる方ですが、喜多川泰氏の信奉者であります。CDを送ってくれた彼の夢は、日本中に「元氣学校」を作ることで、人を元気にする存在に自分がなりたいとのこと。その夢のため、全速力で走っている。しかも楽しそうに、なのです。

喜多川さんの講演会と著書を、多くの人々に知らしめていることも、その活動の一つなのだろうです。

世の中には、何かに向かって懸命に生きている人が、沢山いるのです。この方にお会いしたくなりますよね。

彼の編集した冊子の中に、喜多川泰さんの著書からの抜粋がありましたので、紹介します。

今の時代、将来が「空白」、つまり「どうなるかわからない」と感じている人が増えているようです。

その「空白」を何で埋めるかでその人の人生は変わります。

ある人は「不安」で埋め、別の人は「希望」で埋めます。「不安」で埋めた人は、「安定」を求めて行動するようになります。今まで以上に安定志向が強くなるわけですね。

一方で「希望」で埋めた人は、自分の可能性を信じて「挑戦」しようとしています。結果と

して、両者とも同じ結果に終わります。それは、「失敗」。つまり、どちらにしても思った通りの人生にはならないと言わなければなりません。そしてどちらの生き方を選んだかによって人生が大きく変わってきます。

この時「安定」を求めて行動をしていた人達の多くは、自分以外のものに責任を転嫁しようとしています。自分は頑張つて勉強してこの会社に入ったのに、会社が悪い、上司が悪い、社会が悪い、時代が悪い、国が悪い・・・。

そう叫ぶ人を見て、周囲はその人の生き方が「自立」ではなく「依存」だったということに気づきます。

一方で「挑戦」を選んだ人は、失敗したときに、自分の中にしか責任を求めることができません。他の誰のせいでもない、自分のやり方さえよければ上手くやる事ができたと考えます。そこに成長のチャンスが生まれま

す。

つまり、「自立」とは、どんなことが起こっても、自分の責任としてとらえ、前に進む生き方をする決めた人が手にすることができません。（『心晴日和』より抜粋）

解りやすい話ですよね。『きみと会えたから』『手紙屋』『また、必ず会おう』『父が遺した』『人生の奇跡』『かあさんのコロッケ』、などなど。喜多川さんの著書は沢山ありますが、中高中生に是非読ませたいと思つてい

合掌

おわびと訂正

8月号の2ページにて、インターハイ全国大会に出場した競技を紹介しましたが、陸上競技男子1000mが抜けておりました。

また、同4ページの海外科学研修の日程は、平成30年7月8日(日)～17日(火)でした。

訂正してお詫び申し上げます。

未来の別名は可能性

置かれた場所ですく

「置かれた場所で咲く」私は、この言葉と中学三年の時に出会いました。

幼少のころから、とにかく体を動かすことが大好きで、様々なスポーツに挑戦してきました。その中でも特に熱中し、楽しんでいたのが「ダンス」です。幼稚園の頃から習い始め、その楽しさにすっかり夢中になりました。毎日、練習が楽しみで、また、コンテストに出て賞を頂いたり、発表会で大勢の人に応援してもらえたりすると、さらに楽しくなっていました。そのうち、ダンスは私にとって日常生活の一部、ご飯を食べることと同じくらいのことになりました。

が強いものでした。

その後、部活動も引退し、毎日学校帰りには塾へ行く日々が始まりました。友達と遊ぶこともせず、ひたすら勉強しました。自分の中で「大好きなダンスを辞めさせられてまで挑んでいるのだから、全力を注げば報われる」と必死に自分に言い聞かせ、周りも見ず無我夢中になっていました。合格発表の日。この日はちょうど卒業式でした。式後、外で皆が涙を流しながら写真撮る中、私の頬にはみんなとは違った涙が伝いました。友達と写真を撮ることもせずに家へ帰り、それから一週間、誰とも顔を合わせず、ひたすら自身を責め続けました。そして、ダンスを辞めたことを後悔し、踊ることも見ることも嫌になりました。そんな時、電話をかけてくれた人がいました。受験前からお世話になっていた校長先生です。校長先生は、自暴自棄になっていた私の話を黙って聞いてくれました。

た。そして一言、「置かれた場所で咲きなさい」と。この言葉が、張りつめていた私の心に、ストンと落ちました。どんなに自分を責めたって、過去を後悔したって何も変わらない。そこでようやく、本来の希望ではなかった高校で勉強し、卒業後は、夢を叶えるための大学に進むのだと思えるようになりました。しかし、新たに描いた理想と現実とは異なりました。周りに地元の子は一人もおらず、勉強は難しい。自分の中で気持ちがどんどんマインナスになっていきました。この高校へ進学しようとした時の気持ちは完全に忘れてしまったのです。「中学に戻りたいな。みんなに会いたいな。」そう思っただけでなく開いた卒業アルバム。その最後のページに、大きく書かれていた言葉がありました。

「置かれた場所で必ず咲

け。これが私からの最後の宿題だ。三年後、宿題を提出しに来なさい。by 校長」。こんなことが書いてあるなんて知らなかったの、とても驚きました。と同時に、情けない自身の気持ち、奮い立たされました。そして、自暴自棄だった私を救ってくれたこの言葉を忘れていた自分を反省し、今度こそ

この言葉を忘れずに過ごそうと、固く決意しました。それから高校生活は、非常に充実していました。全力で学校生活や行事を楽しみ、そして、一度は向き合うことが怖くなっていたダンスとも、改めて向き合おうとすることができました。そうして、全力で楽しんでいく中で、友達との仲も深まり、切磋琢磨して勉強できる親友とも出会えました。

中学校卒業から三年後。高校の卒業証書と希望していた大学の合格通知を持ち、笑顔で校長先生に会いに行きました。置かれた場所で咲くことができた、と思えた瞬間でした。そして「中学三年の時に思い描い

た道とは違ったけれども、この道を歩んだおかげで得られたものは沢山あった」と思えました。

人は、理想通りに物事が進むことのほうが少ないものです。この樹徳高校へ進学することを決めた皆さんも、勉強や部活、学校生活において、今置かれている状況が、描いていた理想と違うと感じている人もいるかもしれません。でも、そんな時こそ、この言葉を思い出してほしいのです。今、本校生として置かれているこの場所で、当たり前のように意味を持たせ、卒業の時に、大輪の花を咲かせてください。

(英語科 村上瑠菜)



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」 9月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生籐工芸」
主催 野村ナナ子さん 13日(木)、27日(木)
- (2) 七草ゼミナール塾 主催 上野文雄さん 18日(木)
- (3) 販売実習 16日(日)、17日(祝)
 - ①「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ②「星野富弘美術館」取扱い商品
 - ③東北復興支援商品 (海産物等)

海外科学研修 参加体験記

先月号では写真のみのダイジェスト版でお届けしましたが、今月号は海外科学研修に参加した生徒の体験記を紹介いたします。

『海外科学研修を終えて』
二年SS組 落田 瑞生



異文化交流とはまさにこのことだと思った。まず、ブラジル人に圧倒された。会話をすれば相手の瞳の奥に、私にはない、輝く「ヒマワリ」があった。スピーキングの力も、容姿も、何もかも自分が劣っているように感じた。私は、劣等感のあまり、話しかけると言うより、目を合わせることにすら怖かった。学生たちのただの笑い声にさえ、自分が馬鹿にされているようなネガティブな発想しか浮かばなかった。外国の生活の様子や文化については、事前に研修を重ねてきたつもりだが、実際に海外に行く

と、予備知識とは異なって見えた。

初回のアドモアの授業では始めに自己紹介が行われ、各自が自分の名前を紹介した後、名前の頭文字のアルファベットに関連付けて、自分の好きなものを答えなければならなかったのだが、私はそうした細かい決まり事を英語で聞き取れず、何をすればいいのか全く分からなかった。それに加えて、自分以外のグループ全員の名前と好きなものを覚えねばならず、日本人でない、聞き慣れない外国人たちの名前に翻弄されながら、周囲の学生達からサポートを受けつつ何とかこの場を切り抜けることができた。これは、いわばアイスブレイク。学生達の緊張を解くためのものだったのだろうが、私にとってはすでに感じていた言葉の壁、すなわち自分の実践的な英語力のなさを、嫌というほ

ど感じさせられたわけで、アイスブレイクどころか、こちらの心が砕けそうになった。

その後の授業では、買い物ゲームを発展させたものや早口言葉、そして紛らわしい単語や発音を用いたの少々変わった電話番号交換。また、トランプ政権についての議論や、仮定法の授業などもあった。私はこの授業の中で、隣の席の外国籍の学生に「日本人はリスニングとスピーキングに慣れていないから、理解するのに時間が掛かる。」と話した。これは授業中、自分が取り残されているという疎外感や劣等感から出た、言い訳じみた弱気な発言だった。アメリカでは自分に自信を持たなければならぬと教わっていたが、もはや自分のどこに自信を持っていいのか分からなくなっていた。授業の際、自分一人が浮いているような

感覚に耐えられなかったのだと思う。私のそんな発言に対し、私の目を見たその学生は「日本人は別に普通だよ。」と言った。しかし私には到底、「普通」であるはずがない、としか思えなかったが、その一言に救われた気がした。私はその学生から、なぜそんな小さな事を気にしているのか、と背中を押されたような気持ちになった。

この他にも、今回の海外研修の期間中、自分より年下の学生達に何度も救われた。一緒に昼食を食べたり、好きな音楽について話したり、日本のアニメや文化について興味を示してくれる学生もいた。今回の海外研修で浮き彫りになったのは、自分のリスニング能力の低さだった。何度も聞き返したり、分からないまま「分かった」と言ったり、自分の力不足が露呈した。

サンタモニカビーチの砂の感触、ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドの豪快なアトラクション、カフェテリアで出される半生でガリガリ食感のブロッコリー、四人部屋での会話なども、やるせないことも

あったが、全ての経験が新鮮かつ良い思い出となった。今回、私たちは海外の文化の一部に触れたわけだが、その中でドアを開けておく習慣や何気ない挨拶、またそれとは対照的な熱いハグなど、本当に素敵だなと思った。国民性なのか土地柄なのか、人間が温かい感じがした。こんな素敵な空間にずっといてみたいとも思った。

しかし、私はこの一生を、この日本人としての顔と身体で、そして日本という社会で生きていかねばならない。そうした現実を改めて気付いたとき、少し落胆した。これ程恵まれた環境に身を置きながら、そんなことを言うのは罰当たりだとは思いますが、あの海外の学生達を見てしまった以上、そう思うのは当然であろう。しかし、そんな嫉妬に似た感情と同時に、今の、そしてこれからの私自身が、世界と対等に渡り合っていくか、ねばならない、という一種の覚悟にも似たものが自分の中に芽生えた。日本代表とはいかないまでも、そのような気概を持った人になりたいと私は思った。



平成31年度 樹徳高等学校生徒募集要項

| | | | | |
|----------------|-------------|---|-----------------------|---|
| 募集定員と 募集コース | 男女計 460名 | 総合コース 大学進学コース 特別大学進学コース スーパーサイエンスコース | J組 S組 K組 SS組 | 【出願資格】 ①平成31年3月 中学校卒業見込みの者 ②本校の教育方針に賛 同できる者 |
|----------------|-------------|---|-----------------------|---|

■入試日程

| 入学試験区分 | 推薦入学試験 | 学業奨学生 入学試験 | 一般入学試験 | ステップアップ 入学試験 |
|---|---|---|--|---|
| 募集区分 | J組 推薦 S組 推薦 単願 K組 推薦 SS組 推薦 スポーツ推 薦 | 併願 | 単願・併願 | 単願・併願 |
| 出願受付 | 平成30年 12月17日(月) 12月18日(火) 9:00~16:00 | 平成30年 12月17日(月) 12月18日(火) 9:00~16:00 | 平成31年 1月24日(木) 9:00~16:00 | |
| 試験日 | 平成31年 1月12日(土) | 平成31年 1月12日(土) | 平成31年 2月 2日(土) | |
| 合格発表日 | 1月21日(月) | 1月21日(月) | 2月13日(水) | |
| 入学手続日 | 1月26日(土) | 3月16日(土) | 単願:2月23日(土) 併願:3月16日(土) | |
| 単願切替手続日 | ——— | 1月26日(土) | 2月23日(土) | |
| 出願書類 | 入学願書・調査書 中学校長の推薦書 | 入学願書・調査書 | 入学願書・調査書 | 1/12の受験票 再受験願 |
| 出願料 | 15,000円 | 15,000円 | 15,000円 | 無料 |
| 備考 | 推薦(単願)入学を希望する 人の試験です。 | 他校との併願ができる試験 です。 | 主に併願者のための 試験ですが、単 願者も受験できま す。 | 学業奨学生入学試 験の受験者がさら に上位の合格種別 を目指して再受験 する試験です。 |
| ※入学試験の結果、奨学生となった者には奨学金が給付されます。 (別記合格種別・奨学生種別参照) ※奨学生の更新審査は学期ごとに行われます。 | | | | |

■試験方法・科目 (各入学試験・各教科とも、100点満点・50分間)

| 入学試験区分 | 推薦入学試験 | 学業奨学生 入学試験 | 一般入学試験 | ステップアップ 入学試験 |
|--------|----------|---------------|-----------|-----------------|
| 試験方式 | マークシート方式 | マークシート方式 | 記述方式 | |
| 試験科目 | 国・数・英 | 国・数・英・社・理 | 国・数・英・社・理 | |
| 面接試験 | あり | なし | なし | |

一貫校 中学校 だより

尾瀬高原学校から

キラッと光った樹徳生

樹徳中学校一・二年生は、八月六日～八日の二泊三日で、尾瀬高原学校に行ってきました。

日頃の学校生活から離れて、自然とのふれあい、友とのふれあいを求めて計画された宿泊学習ですが、生徒は、自然の雄大さや美しさ、不思議などを肌で感じ、大自然の中での様々な活動を通して、友だちとの連帯感や信頼感を深めることができた三日間だったように思います。

二日目のメインは、尾瀬ヶ原散策でした。天候が心配された当日でしたが、鳩待峠について歩き始めると、天気が次第に回復し、尾瀬ヶ原では青空まで見えてきました。大人の足でも、最短の鳩待峠から山ノ鼻（尾瀬ヶ原の西端）までは、行きは約一時間、帰りは約一時間半かかりますが、子どもたちは全員元気に散策を楽しんでいました。

子どもたちは、少人数のグループに分かれて行動しました。ネイチャーガイドさんから、尾瀬の貴重な動植物の解説や尾瀬の成り立ち、環境保全への取り組みなどについてお話を聞いて

いただき、質の高い自然体験や環境学習ができたように思います。子どもたちには、この高原学校での体験を機に、自然や環境について考え、ふるさとを愛する気持ちを、さらに育んでいってほしいと願っています。

私個人としては、二十数年ぶりの尾瀬でしたが、前回の思い出や風景と変わらないことに、とても感動しました。木道下や清流には、アカハライモリやヤマメがたくさん発見できました。至仏山や燧ヶ岳の様子も穏やかに見え、高原特有のさわやかな風が、心をいやしてくれました。散策を終えて、ネイチャーガイドさんとお話をしましたが、今日は久しぶりに気持ちのよいガイドができた、子どもたちの態度や振る舞いにお褒めの言葉をいただき、と

でも嬉しく思いました。一人ひとりが樹徳生としての自覚と誇りをしっかり行動にあらわすことができたのは、とても素晴らしいことです。キラッと光る樹徳生の良さを、改めて感じることができました。

七十四名全員の協力と団結のもと、思い出に残る、素晴らしい高原学校となりました。

（副校長 澁谷和郎）



◆校内英語スピーチコンテスト

七月十九日、英語のスピーチコンテストが行われました。各クラスの代表二十六名が、日頃の練習の成果を披露しました。

スピーチの部では、三年生の間中董さん、海外在住経験者の部は、関田真愛さんが最優秀賞に選ばれました。二人は樹徳生の代表と



して、九月六日に行われる、桐生市の大会に参加する予定です。

◆夏季総合体育大会 結果報告

市総体が七月中旬から始まり、各部の選手たちが活躍しました。

◎卓球部

〈市大会〉
久保田りか三年女子シングルス三位

〈県大会〉
久保田りか(女子シングルス)

ベスト十六

◎陸上競技部

〈市大会〉
関子田侑(八〇〇m)三位
島村祐多(走り幅跳び)七位
山岡満理奈(一年走り幅跳び)七位

樹徳中高一貫教育

第2回学校説明会

9/29(土)

10:00～12:00

- ・31年度入試概要
- ・学校生活・カリキュラム
- ・入試情報 他

第2回樹徳中モギ試験

10/13(土)

[I型]

国語 9:15～10:00

算数 10:15～11:00

[II型]

適性検査型 9:15～10:00

作文 10:15～11:00

※[I型][II型]選択

受験料 無料

お問い合わせ

TEL 0277-45-2257

幼稚園だより

「研修の成果を、

実践する二学期！」

長かった夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まりました。今年の夏は異常な猛暑が続き、八月三日（金）に予定していた桐生祭り「子どもみこしパレード」や、プールが中止になるなど、連日の高温注意報に、子どもたちの体調を心配する日々でしたが、八月二十七日（月）の始業式には、みんな元気に登園できました。久しぶりに友だちと再会し、満面の笑顔で、



楽しいプール遊び

夏休みの思い出をたくさん話してくれました。運動会やなかよし発表会など、大きな行事が控える二学期ですが、一人ひとりが伸び伸びと活動できるよう支援していききたいと思えます。

「夏季研修から」

先生方はこの夏休み、夏季研修（初級・上級・各二日間）等に全員参加し、新教育要領や幼・小の連携、保育技術と理論の向上、保育理念を磨くなど、資質や実践力の向上に努めました。

中級講座（八月六・七日）では、心に残る講演『「幼小接続」を考えてみよう』がありました。講師の先生が一年生の作文を提示し、この作文からあなたは何かを感じましたか？と問われました。その作文を紹介します。

「もうどう犬とわたし」

わたしが、まだ幼稚園のころのことです。

目のみえない人が、ようちえんにきました。その人は、女の人で黒っぽい犬をつけてきていました。はじめ、わたしは、その犬がどんなやくめをする犬かよくわかりませんでした。「その人がかわいがっているペットかな。」とおもいました。でも、よく見ていると、その人と犬はおなじはやさでゆっくりとあるいていました。その人をまもっているようにも見えました。

（中略）

小がっこうにゆうがくしてからも、この日は、よくおぼえていました。あるとき、クラスにあるほんの中から、「もうどうけんドリーナ」という本をみつけました。よんでみたら、ようちえんのころに見たり、きいたりした、もうどう犬のことがくわしくかいてありました。この本で、犬がとくべつにくんれんされて、もうどう犬になることも、あたらしくわかりました。人と犬が、こんなになかよしで、たすけあっていること、すばらしいことだとかんじます。わたしは、ともだちが「だいじょうぶ。」と知っているのを

きくと、そのともだちのことを「いい人だな。」とおもいます。あと、人をたすけている人を見ると、その人のことも、「いい人だな。」とおもいます。わたしも目や体のふじゆうな人には、やさしくしてあげたいです。また、だれかが、こまっていたらたすけて、こえをかけたいたです。

（小学校一年生女兒の作文より）



お泊まり会・スイカ割り

幼・小の接続において幼稚園における感動体験の大切さを再認識しました。「人間は感動するたびに成長する」と言われますが、幼稚園での体験が、小学校での作文において、知識を

広げ、子ども（作者）の感性や意志の成長につながっている例として、小学校との連携の重要性や、幼稚園における遊びや感動体験が、小学校での活躍・成長の基礎となっていることが、よく理解できました。今後、小学校教育要領や一年生のスタートカリキュラム等の理解にも努め、夢中になれる環境づくりや、季節や行事を遊びに生かす教育（保育）の実践に、努めていきたいと思えます。二学期は運動会・発表会等の大行事が続きますが、多くの感動体験を通して、小学校での学びの基礎をしっかりと育成していきたいと思えます。

園長 瀬谷 茂

『入園願書受付』

○三十一年度入園願書（二・三歳）を受け付けております。願書提出は早めに樹徳幼稚園まで
○園見学はいつでもできます。ご連絡ください。

※連絡先

〇二七七一五三一五五七一
<http://www.junokuei.jp/Kinder>

9月(正精進)の行事予定

| 日 | 曜日 | 高等学校(本校) | 一貫校 | 幼稚園 |
|----|----|----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 1 | 土 | GTEC②(希望者) | 地区別説明会(～2日) | 2・3号子ども開園日 新入園児願書受付開始 |
| 2 | 日 | | | |
| 3 | 月 | LHR 就職推薦開始 | | 安全点検日 リズム(全)線(年少) |
| 4 | 火 | 県高P連本部役員会 | | プール写真撮影 避難訓練(地震) |
| 5 | 水 | 授業料納入日 | | 保育料納入日 英語(全)文字・数(年長) |
| 6 | 木 | | | 体育(全)文字・数(年中) |
| 7 | 金 | | | プール納め 8・9月生まれ「お誕生会」 |
| 8 | 土 | 3年学研VSP・P模試③ | 小学生対象中学校模擬授業 | 2・3号子ども開園日 |
| 9 | 日 | | | |
| 10 | 月 | 校内基礎学力テスト②(総合コース) 普通授業(進学コース) | | 群私幼研究委員会 リズム(全)線(年少) |
| 11 | 火 | 生徒募集要項説明会(中学校教員対象) | | 読み聞かせ(西山先生) |
| 12 | 水 | 生徒募集要項説明会(学習塾対象) マイトリー基金拠金日 | | 英語(全)文字・数(年長) |
| 13 | 木 | | 授業参観日 | 体育(全)文字・数(年中) |
| 14 | 金 | 交通安全マナーアップ運動② | マナーアップ運動 | |
| 15 | 土 | 中学生1日体験入学② 職員出勤日 | | 2・3号子ども開園日 |
| 16 | 日 | 就職選考(入社試験)開始 | | |
| 17 | 月 | 敬老の日 | | |
| 18 | 火 | 3年ベネッセ・駿台マーク模試①(19日・22日) | | |
| 19 | 水 | | | お茶のお稽古③ 英語(全)文字・数(年長) |
| 20 | 木 | | | 体育(全)文字・数(年中) |
| 21 | 金 | | | |
| 22 | 土 | | | 2・3号子ども開園日 |
| 23 | 日 | 秋分の日 全商情報処理検定① | | 秋分の日 |
| 24 | 月 | 振替休日 | | |
| 25 | 火 | | 中3異文化説明会イングリッシュテスト 早朝自主学习(～10/3) | ボール投げ教室(年中・年長)読み聞かせ(西山先生) |
| 26 | 水 | | | 英語(全)文字・数(年長) |
| 27 | 木 | | | 体育(全)文字・数(年中) |
| 28 | 金 | 出欠統計 制服アフターサービス | | |
| 29 | 土 | | 学校説明会 | 2・3号子ども開園日 |
| 30 | 日 | | | |

※ 1日は高等学校・一貫校の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく